

夢を奏でるハーモニー みやんじょ吹奏楽フェスタ2009



宮之城にゆかりのある吹奏楽経験者も加わった合同演奏

みやんじょ吹奏楽フェスタ2009が1月25日、宮之城文化センターで開催されました。

鶴田小学校器楽部、盈進小学校・宮之城中学校・薩摩中学校・薩摩中央高等学校の吹奏楽部と宮之城吹奏楽団、宮之城にゆかりのある吹奏楽経験者に加え、今回は、吹奏楽を通じて近隣市町村団体との交流を目的に、薩摩川内市副田小学校金管バンドも出演しました。実行委員会を取り組んだ空き缶リサイクルも、沢山

の協力をいただきました。また、パンフレットの表紙絵コンクールや校歌ワンフレーズ演奏も好評で、それぞれの団体が趣向を凝らし、鑑賞者も参加できる楽しいステージとなりました。ジュニアリーダークラブほたるのメンバーもスタッフとして参加し、音響や照明、舞台などを手伝いました。



「永野むら」を創設したメンバーら

本町初 集落営農法人 農事組合法人「永野むら」
さつま町で初めてとなる農作業受託組織から発展した農事組合法人「永野むら」の創立総会が1月16日、永野岩元地区で開催されました。
法人「永野むら」は、4人（うち1人はさつま農業協同組合）で構成され、地区農業者の高齢化や兼業化が進み、水田を耕作する人が減少するなか、水田農業の担い手となり、地域農業のあり方を見直し、住民と協力しながら農地の有効利用と保全に取り組みます。今後は、人数を増やしなから、永野地域全体の活性化を目指します。

食育で健康いきいき さつま町女性大会



食育をテーマにしたユーモアのある寸劇

第4回さつま町女性大会が1月25日、薩摩農村環境改善センターで開催されました。

大会は、食育をテーマにユーモアを交えた寸劇や食事バランスガイドの紹介、各団体の活動報告などが行われ、各種団体などから参加した250人が健全な食生活のあり方などについて学びました。



職場体験をする鶴田中学校2年生

5日間の職場体験 鶴田中学校2年生

連続5日間の職場体験学習が1月26日から30日にかけて行われ、鶴田中学校2年生の生徒が町内の様々な職業を体験しました。
業種は、美容、農業、幼稚園・保育園、書店、製造業、商店など多種多様です。生徒たちは、あいさつやマナー、仕事のノウハウに戸惑いながらも、次第に職場に慣れ、普段の学校生活では体験できない多くのことを学びました。

町内の事業主の理解と協力により、充実した職場体験学習ができたようです。



せり台に立ち、農産物を売り込む井上町長（右）

トップセールス 大阪と京都市場で実施

井上章三町長と永福喜作さつま農協組合長が1月23日から24日にかけて、大阪と京都市場で、トップセールスを実施しました。
2人は、さつま農協ハウス金柑部会の福岡美治郎会長と共にせり台に立ち、イチゴやトマト、ハウスキンカン、セレベスといった、さつま町の農産物の良さを宣伝しながら、売り込みました。当日のせりでは「薩摩のさつま」さつま農協ブランドのゴールドキンカン（2kg）が、5,500円の高値で取り引きされました。今後ともさつま農協と連携しながら、トップセールスに取り組む計画です。



放水訓練を行う地元消防団員

興詮寺で防火訓練 文化財防火デー

文化財防火デーの防火訓練が1月26日、鹿児島県指定文化財の興詮寺（佐志）で行われました。

訓練は、寺の裏山から出火したとの想定で行われ、消防署へ連絡し、町消防本部と地元消防団が駆けつけ、消火活動にあたりました。また、放水訓練なども実施し、万一の事態に備えました。

文化財防火デーは、昭和24年1月26日に法隆寺金堂壁画が焼損した日で、この日を中心に、全国的に文化財防火運動が実施されています。

山形県新庄市からの贈り物 かまくらに雪の滑り台・宮之城初市



山形県新庄市から運ばれた雪で作られた、かまくらと雪の滑り台

宮之城初市が2月7日、盈進小学校前町道で開催されました。

会場では、宮之城人形や様々な露店の商品を求める多くの人で賑わいました。また、宮之城屋地・虎居商店街では7回目となる百縁祭（百円商店街）も開催されました。

今回は、特別に百円商店街発祥の山形県新庄市から大型トラックで26時間かけて運ばれた約12トンの雪を使い、午前3時から新庄市から来た7人とさつま町商

工会のメンバーらとで「かまくら」と「雪の滑り台」が作られました。

出来上がったかまくらは、大人3人が立って入れるほど大きく、初市の開始とともに多くの人が絶えず訪れ、雪の滑り台では、夢中で滑る子どもたちのはしゃぎ声が聞こえてきました。

雪を運んできたトラックは、「みやんじょ温泉竹ホタル」で使用された竹燈籠1,200本を積んで帰り、それらは新庄市の商店街などに灯されました。

郷土料理に挑戦 中津川小5・6年生

中津川小学校5・6年生13人が1月27日、もち米を使った郷土料理「ねったば」と「おこわ」づくりに挑戦しました。

児童のほとんどが初めてとあって、イモの皮むきや包丁の使い方などに苦労しているようでした。

出来上がった郷土料理を試食すると、美味しいと満足な様子でした。

この料理教室は、「かごしまの食育・地産地消推進事業」の一環で、薩摩地区の食生活改善推進員を講師に招き行われたものです。



郷土料理づくりに挑戦する児童ら